

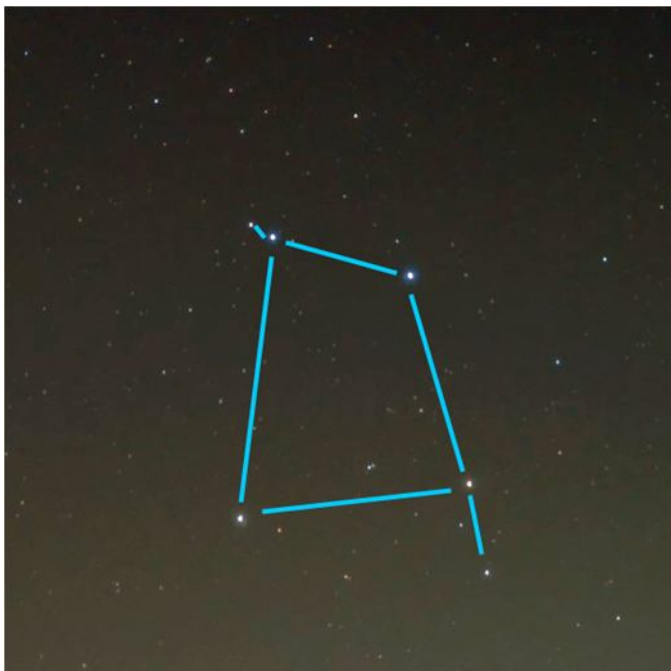
「からす座の星座線」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

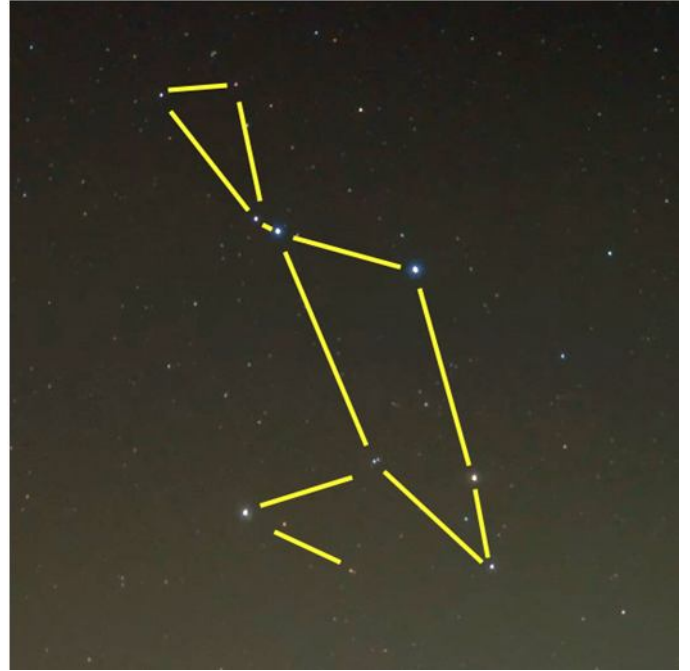
地球から見た「恒星の見かけの並び」を、人物・動物・道具などに見立てたのが「星座」である。昔の星図を見ると、描かれているのは恒星と星座絵だけで、恒星同士を結ぶ「星座線」は描かれていない。



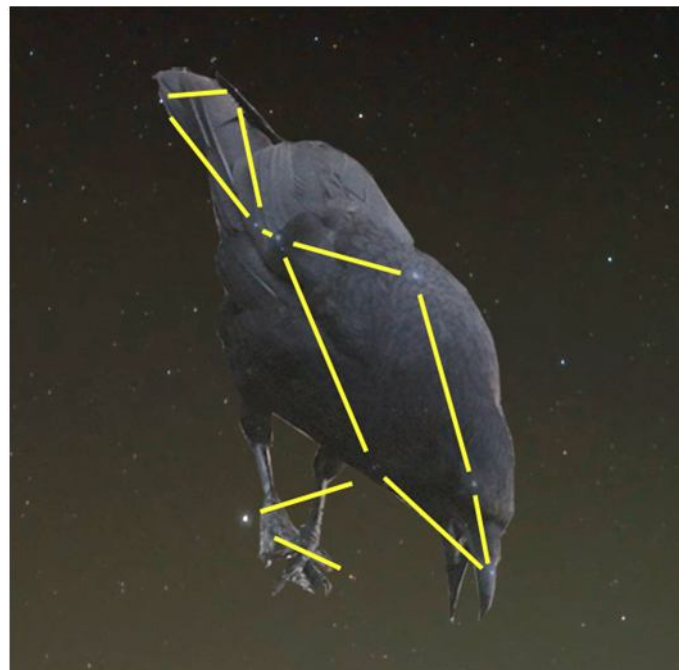
これが「からす座の全景」である。北軽井沢で撮影した。明るい星はないが、狭い範囲に四角形が形成されているので、よく目立つ。しかし、この星の並びから「カラス」を想像するのは難しい。下の図のように、星座線を入れても、カラスの姿は浮かんでこない。



どの星図を見ても、からす座の星座線は、左下のような「いびつな四角形」として描かれている。確かに、星空から「からす座」を探し出すには、好都合だ。



私は「からす座」は、もともと図のような星座線が正しいのではないかと考えている。これだと、カラスが右前かがみになって、「うみへび座」の背中を突いている様子が思い浮かぶ。



これに、ゴミを突いている本物のカラスの写真を重ねてみると・・・見事に一致した。正解はこれだ！